

青年海外協力隊派遣取極署名30周年記念のレセプションを開催

元JICAボランティア西田慎氏（体操コーチ）に在外公館長表彰実施

2017年は、1987年に日・ジャマイカ両国が青年海外協力隊派遣取極に署名してから、30周年に当たります。この取極への署名後、2年後の1989年に3名のボランティア（協力隊員）が派遣され、これまでの派遣総数は412名に達しています。活動分野は、教育、防災、環境教育、コミュニティ開発等多岐にわたり、当国の社会経済開発を草の根レベルで支援し続けています。

このようなJICAボランティアのこれまでの貢献を讃え、30周年の記念の節目を祝うため、2017年7月21日、中野大使は、当地JICA支所の協力を得て、祝賀レセプションを公邸において開催しました。

ジャマイカ政府を代表し主賓として出席したジョンソン＝スミス外務・貿易大臣は挨拶で、チュップス（コーヒー豆を使ったアクセサリー）製造への尽力等の事例をあげ、JICAボランティアの貢献を高く評価するとともに、我が国の当国に対する長年の協力に深甚の謝意を述べました。またJICA本部から出席した新井青年海外協力隊事務局審議役より、JICAボランティア制度の概要及び当国でのボランティアの活動状況をスライド写真を示しつつ説明しました。中野大使からは、ボランティアが現地の人々と協働しながら多くの成果を上げてきたこと、また現地の人々との深い友情を結び、日ジャマイカ関係の強化にも多大に尽力していることを強調しました。

レセプションでは、2004年に当国に体操指導のためにJICAボランティアとして派遣され、任務終了後も当国でジャマイカの青少年に体操指導を続けている西田慎氏に対し、その長年の貢献に対し、中野大使より在外公館長表彰状と記念品が手渡されました。

レセプションには、ジョンソン＝スミス外務・貿易大臣のほか、ギルバート・ロバーツ同省外務次官、ロボサム前同省次官（元駐日大使）、バーンズ元駐日大使等、ジャマイカ政府関係者、当地外交団、当地で活動するJICAボランティア等、約80名が出席しました。



中野大使の挨拶



新井審議役の挨拶



(左) ジョンソン＝スミス外務・貿易大臣の挨拶



(右) (前列：左から) 新井審議役、中野大使、ジョンソン＝スミス外務・貿易大臣、ギルバート＝ロバーツ外務・貿易省次官、飛田 JICA 支所長及び (後列) JICA ボランティア



中野大使から西田氏（左から三番目）への在外公館長表彰状および及び記念品の授与。西田氏は2006年から2年間、ジャマイカで JICA ボランティアを務め、その後、西田体操教室を通じて体操競技の振興に大いに貢献した。



平野隊員（左側写真）によるラジオ体操のデモンストレーション及び出席者の実演



（左）ジョンソン＝スミス外務・貿易大臣と談笑する中野大使

（右）レセプション会場の様子



JICA 隊員によるプラスチック・ボトルで作成したロケットの発射デモンストレーション